

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470101336	事業の開始年月日	平成18年1月1日	
		指定年月日	平成18年1月1日	
法人名	有限会社 福寿の里			
事業所名	福寿の里 グループホーム			
所在地	(〒230-0003) 神奈川県横浜市鶴見区尻手2-4-21			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果 市町村受理日	平成23年4月11日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1：外出出来る利用者様は、月1回買い物兼ねて外食に出かけている。2：レクリエーションでは、以前入居していた方の御家族（ボランティア）によるウクレレ演奏会がある。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年2月21日	評価機関 評価決定日	平成23年3月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>《事業所の優れている点》 ◇「安心できる生活。支え合い共存できる生活」の理念は、分かりやすく覚えやすいようにと、職員の意見を入れて2年前に作り変えた。このため職員は理念をよく理解しており、自分の親に対する気持ちを持って利用者に接し、利用者の身だしなみにも細かい心配りをしている。 ◇月2回の往診に加え、必要に応じていつでも診てくれる協力医と連携して、胃ろう等の医療行為が必要な利用者以外は、家族の意向に沿って重度化、終末期への支援を実現している。終末期には、常勤の准看護師が24時間体制で対応している。開所以来5人を超える利用者を看取っており、その家族の一人は、毎月ウクレレ演奏のボランティアとして来所している。 ◇外出時に利用者から「食べてみたい」との希望があり、それ以来、月1回は麺類や寿司などの外食を実施している。店舗も協力的で、他のお客さんとの接触もあり、地域との交流の場にもなっている。 《事業所が工夫している点》 ◇家族との交流を深める機会として家族会を立ち上げ、去年は3回開催しほとんどの全家族が参加している。家族の面会が増えるよう「夜でもいい、顔を見るだけでもいいから」と積極的な声掛けが功を奏している。 ◇外国人や障害者のスタッフもおり、入浴、食事作りでも適材適所で分担し、利用者の意向に沿った支援の一助となっている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	福寿の里 グループホーム
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に事業の目的及び方針を定め、ホーム内に掲示し、全職員で取り組む努力をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 実践しやすいようにとの配慮から現管理者が職員の意見を聞いて作り変えた理念を、居間に掲示し、パンフレットにも掲載している。 理念の精神を「自分の親に対する気持ちで」と具現化し、細やかな心配りのある支援へとつなげている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の行事（お祭り・お花見など）に参加し交流を深めるよう努力しているが日常的な交流には至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> 自治会に加入し、夏祭りや花見に参加している。地域では神輿が通るとき声をかけてくれ、炊き出しもできる花見では席を用意してくれる。 事業所は自治会のダンボール回収に協力しており、夏休みには近くの小学生の見学を受け入れた。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献出来るよう話し合い取り組んでいるが実践には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年12月、運営推進会議の設立をする事が出来たが、意見交換するまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> 昨年12月に利用者と家族、町内会副会長、民生委員、地域包括支援センターの職員の参加を得て、第1回の運営推進会議を開催した。状況報告に加え、災害時の対応や施設についての質問があった。 2回目の開催は3月の予定ある。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議を定期的に開催して参加者の声を聴き、地域との連携を深めることで、サービス向上に活かされることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、電話等での相談は実施しているが、協力関係を築くまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議の開催方法を地域包括支援センター担当者に相談し、助言を得て第1回の開催に至った。 行政からの研修案内については、極力出席するように心がけている。また横浜市グループホーム協議会に加入し、合同研修に参加している。 	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルに基づき、拘束のない生活支援を実施している。玄関は、防犯のため夜間のみ施錠している。	・身体拘束マニュアルに基づき、事業所内研修を実施して、拘束をしない支援に取り組んでいる。 ・玄関、居室は施錠はしていないが、防犯のため玄関は遅番の職員が退所する夜9時より夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会・研修会に出来る限り参加し全職員で共有しながら日々の生活支援を行なっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性があれば関係者と話し合う機会を設けるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム内で面談を行ない、解らない事については、十分な説明をし、理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年3回家族会を開催し意見交換しながら、意見・要望を出して頂き、検討している。	・意見交換の場として、昨年は3回の家族会を開催し、ほぼ全家族が参加した。 ・苦情処理体制を重要事項説明書に明示し、玄関にも掲示している。 ・運営推進会議には利用者の代表も出席しており、利用者の意見を聞く機会としている。	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1～2回の面接を設け、意見を聴いている。	・契約更新時等年1～2回、職員の面接を行い、意見を聞く機会としている。 ・月1回の外食支援等、利用者の要望を聞き取った職員が、管理者と話し合っ改善できた事例もある。	・スタッフ会議を、必要に応じて招集するのみではなく、定期的に開催することで、会議が、職員との活発な意見交換の場となることが期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、職員と面談し、職員の希望に添えるよう努力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には担当を決め指導をし何でも相談出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が交流会等に参加し情報交換を行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談者が殆ど家族のため、利用者本人と面談する機会が殆どない。		

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向・要望に耳を傾け、安心出来るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の意向・要望に沿った計画作りをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が共有出来る時間を持つよう心がけ努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとに家族の参加・協力が得られるよう働きかけている。また、家族へ面会の回数を増やして頂くよう依頼し、面会の回数が増えてきている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限は殆どせず、いつでも面会できる事を家族に説明し伝えて頂いている。	・友人や知人とはいつでも電話し、面会できるよう支援している。 ・馴染みの床屋や墓参り等への外出には、家族の支援を得て実施している。	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション（運動・トランプなど）により、利用者同士が互いに励まし合い、助け合えるような環境作りに努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家庭訪問や電話での対応をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話の中から利用者の意向・要望を把握し、出来る限り意向・要望に沿えるよう努力している。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の会話から意向を把握している。把握が困難な利用者には、時間を置いて気の合う職員が声をかける等の工夫をしている。 ・言葉が不自由な方は、表情やしぐさから意向を汲み取っている。 ・買い物に出た際に、麺類やお寿司を「食べてみたい」との希望があり、毎月外食をするようになった。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・利用者本人からの情報を基に、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の観察を行ない、特記事項を記録に残し職員全員で共有出来るよう努めている。		

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人と家族からの意向・要望を基に支援計画作成をしている。短期3ヶ月・長期6ヶ月・状況変化時で見直している。また、家族に説明し同意を得ている。	・利用者・家族の意向と主治医の意見を入れ、カンファレンスをして介護計画を作成している。 ・短期3か月、長期計画は6か月で見直しをしているが、主治医から指摘された場合、また、利用者の状況に応じて家族に確認をとり、介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に特記事項のみ記載し、職員間で共有し計画見直しができるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族会での意見交換を基に、その時々ニーズに対応できるよう職員間で話し合い努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによる月1回のウクレレ演奏会がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の確認をし、利用者本人や家族の意向に沿えるようにしている。また、希望に応じて往診依頼も行なっている。	・かかりつけ医へは、家族の支援を得て通院を継続している。 ・月2回事業所の協力医が往診している。入所時に本人・家族に協力医について説明し、この結果協力医への受診に変更する利用者が多い。	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の准看護師がおり、職員からの情報を基に日々の健康チェックをしている。また、必要に応じて受診できるよう家族と相談し、受診依頼・往診依頼をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院設備のある病院との協働・連携は難しい。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族の意向・希望を尊重しながら、主治医と話し合いを持ち、職員全員で方針を共有し、終末期に向けた支援を行なっている。	・24時間対応の協力医のもと、終末期への支援を行っており、昨年も1名の利用者を看取った。終末期の利用者には、専任の准看護師が24時間体制で看護に当たっている。 ・家族とは、利用者の状況に応じ必要と思われる段階で協力医を交えて話し合い、意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに基づき対応するよう口頭での指導はしているが定期的な訓練の実施は出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内での避難訓練は実施出来ているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・消防署の指導のもと、デイサービスとの共同で、防災避難訓練を実施した。 ・事業所は、地域の防災時の弱者名簿に記載してもらっている。 ・水、食料、紙オムツは備蓄している。	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに注意しながら、信頼関係を築けるよう努力している。	・入浴や排泄誘導の際、大声で声掛けしない等の配慮をしている。管理者は職員の不適切な態度に気がついたときは、その都度注意している。 ・職員は入職時に、個人情報保護の遵守について、契約書にサインしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を話しやすい環境づくりが出来るよう努力している。また、利用者と職員が共有出来る時間を多く持てるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	飲食時間以外は利用者一人ひとりの生活リズムを崩さないよう意識し業務に当たっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症のため、化粧品を飲んだり、食べたりする事が無いよう、使用の制限はさせて頂いている。散歩を兼ねて理髪店の利用をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事準備・片付けが出来るよう言葉かけし促しているが拒否される事が多いため出来ていない。	・利用者には、皮むきやゴマ搗り等の簡単にできる作業を手伝ってもらっている。 ・外での食事会を毎月1回行っており、利用者が楽しみにしていると共に、地域の人達との交流の場となっている。	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時に家族から食事状況を聞き、一人ひとりの食事量・飲水量を調整している。また、日々の生活状況を見ながら食事量・飲水量の調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導のもと、利用者一人ひとりに合った口腔ケア・言葉かけを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立出来ていない利用者に対しては、排泄チェック表を使用し、言葉かけし誘導を行なっている。	・利用者の半数は自立している。 飲水量・排泄チェック表にて利用者個人のパターンを認識し、タイムリーなトイレ誘導を行うことで、パットの使用を無くすことができた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションの中に体操を取り入れ、体を動かすよう支援している。また、必要に応じて主治医と連絡を取り、緩下剤の処方をして頂き調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回は入浴出来るよう支援している。また、自立度が低いため、利用者一人ひとりに合わせた支援は出来ていない。	・入浴は通常週2回、夏場は週3回である。利用者の入浴時に合わせて職員のスフトを決めている。 ・寝たきりの利用者も職員が介助し入浴させている。入浴を拒む方には無理に入浴させず、足浴等で対処している。	

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活リズムを崩さないよう心がけている。また、レクリエーションへの参加を促し、昼夜逆転しないよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの内服薬の説明書を準備し、職員がいつでも見られるようにしている。また、内服薬の変更があった場合には個人記録に記載し共有出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯・掃除は利用者と一緒に出来るよう働きかけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせ、散歩に出かけられるようにしている。また、日常的に屋上への散歩はしている。月1回は買い物兼ねて昼食のため外出支援を行なっている。	・天候が良い時は、寝たきりの利用者を除いて全員で、近くの公園に散歩に出かけている。40分～1時間の散歩で公園でおやつを食べたり、おしゃべりを楽しんでいる。 ・週に1～2回、近くのスーパーにおよつもの買い出しに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と話し合い、現金を持たせないようにしている。必要時は家族と連絡を取り合い、立替払いにしている。		

福寿の里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の希望により、緊急時のみ連絡するようにしている。利用者から希望があれば、日中のみ職員が電話連絡している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに花などを飾り、利用者が季節を感じられるようにしている。	・居間は、自然光が入り明るく、換気を頻繁に行うことで、室内にいても外気温度等で季節を感じるように心がけている。・屋上で利用者が栽培した花を飾り、トマト、キュウリ等の野菜を食材にすることで季節感を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々の居場所は確保出来ており、自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物を持ってきて頂き、家族・利用者がレイアウトしている。	・エアコン、ベット、カーテン以外は利用者の馴染みのタンス、鏡、電気スタンド等を持ち込んでいる。居室にテレビを置くと部屋に籠り切りになるので、置かないよう事前に、本人・家族の了解を得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床全面をバリアフリーにし、転倒などに注意している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

福寿の里グループホーム

作成日

平成23年4月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が定期的 に開催できていない。	運営推進会議の定期的 な開催。	地域への積極的な働き かけ。	23年度内
2	11	職員と定期的に話し合 いをする機会が少ない。	定期的に話し合いがで きる環境を整備する。	話し合いをし、意見交 換を行う。	7月頃まで
3					
4					
5					